

サイエンスカフェの概要について（事後報告）

1. 開催日時：令和4年（2022年）12月10日（土） 14時00分～16時00分
2. 開催場所：東京大学農学部 中島ホール
3. 関係団体等：日本学術会議農芸化学分科会
公益社団法人日本農芸化学会

4. 役割

司会：岡田 憲典（東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授）

挨拶：西山 真（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授、
日本学術会議連携会員、農芸化学分科会委員）

講師：有村 源一郎（東京理科大学先進工学部生命システム工学科 教授）

5. 概要：

東京大学農学部中島ホールを会場とし、感染拡大防止策を十分に執った上で対面にて開催した。冒頭、コーディネーターの岡田から日本農芸化学会とサイエンスカフェについての紹介の後、日本学術会議連携会員の西山から日本学術会議とその活動の紹介を兼ねて共催について挨拶があった。次に、講師の有村源一郎氏が、「植物のコミュニケーションの不思議と無農薬栽培への応用！」と題して、自ら動くことの出来ない植物が示す植物害虫への抵抗策について講演した。植物害虫ハダニが葉を食べた際に、植物は揮発性二次代謝産物を発生し、害虫のハダニを食べる別のダニを誘因ことで植物が自身の被害を防ぐこと、そしてその機構についての研究紹介がなされた。講演の間、ハダニを捕食するカブリダニが、ハダニにかじられた葉から出た匂いに誘引されて、走って行く様子を観察する実験装置を実際に参加者に使ってもらうデモンストラーションがあった。講演中、講演後を問わず、講師と参加者で活発なフリーディスカッションが行われた。

とても面白い内容のサイエンスカフェとなったが、あいにく新型コロナウイルス感染の第8波の中に開催したせいか、参加者は7名と少なく、少し残念な面もあった。そうではあったものの、実演で高校生が何匹もカブリダニを装置に移植して、走る姿を観察しているのが印象的でもあり、参加者には農芸化学研究に興味を持っていただく

ことには成功したように思われる。参加者には試食品（お茶と湯玉）を持ち帰っていただいた。

6. 参加人数：

来場者：7名（高校生2名、大学生1名、一般4名）

講演者、司会、挨拶等：3名

7. 特記事項：なし